

行政調査報告書

- 御母衣ダム
- 石川県庁
- いしかわ里山里海サイクリングルート
- 兼六園

令和4年 11 月 29 日（火）～30 日（水）

大阪維新の会大阪府議会議員団

◇視察の目的

令和4年11月29・30日の2日間、都市住宅部会の管外視察を実施。第1日目は岐阜県の御母衣ダムを視察。第2日目は石川県の「①自転車活用推進計画」並びに「②県営公園の管理手法」について県庁での説明聴取後、能登千里浜レストハウスに赴き 1、いしかわ里山里海サイクリングルート 2、レンタサイクル利用状況 3、サイクリングルートの整備状況 4、千里浜なぎさドライブウェイの現状を視察。また、兼六園にて直営公園の管理状況を視察。

（御母衣ダム）

大阪府では、茨木市において安威川ダム（ロックフィル形式、高さ76.5メートル、長さ337.5メートル）を建設中で、今般50年をかけて主要構造物が完成し、9月から試験湛水を行い、湛水量の見極め等を実施しているところ。

御母衣ダムは、安威川ダムと同じロックフィル形式を採るダムであり、完成が近づいてくるにあたり維持管理手法等について参考とすべく、現地視察・意見交換を行うこととした。

（石川県議会）

①自転車活用推進計画

大阪府では自転車活用推進計画に掲げる目標「観光振興に資するサイクルツーリズムの促進」に関する取組みとして、広域的な自転車通行環境の充実を図る整備を検討中。

8月策定の広域的な自転車通行環境整備事業計画では、大阪・関西万博の開催を契機に、来阪者が安全・快適に府内各地を周遊できる環境整備に向け、淀川サイクルライン（仮称）等を、優先整備ルートに設定。石川県では、「いしかわ里山里海サイクリングルート」がサイクルツーリズムの推進モデルルートにも指定されていることから、大阪が今後、整備を進めていくにあたり参考とすべく、説明聴取・意見交換を行うこととした。

②県営公園の管理について

大阪府では19公園中18公園に指定管理者制度導入。民間ノウハウをより積極的に活用し、利用者サービスを高め、公園の魅力向上を図っている。石川県では兼六園・金沢城公園・鞍月セントラルパークが直営管理。直営のメリット・デメリット、直営と指定管理との違い（収入の伸び方、利用者満足度、集客における目標・課題違い）について知見を得るべく、説明聴取・意見交換を行うこととした。

（いしかわ里山里海サイクリングルート）

サイクルツーリズムの推進モデルルートである「いしかわ里山里海サイクリングルート」の利用者数の状況、県民・利用者の評価や反応、今後の課題について現地視察することとした。

（兼六園）

石川県の直営の公園で、最も代表的な兼六園を現地視察することとした。

◇視察期間

令和4年 11 月 29 日（火）～30 日（水）

◇視察参加者

山本 真吾（団長）
大橋 一功
松本 利明
中川 あきひと
岡沢 龍一
徳村 さとる
西林 克敏
富田 武彦 計8名

◇視察先

《第1日目／11月29日（火）》

○御母衣ダム（岐阜県大野郡白川村牧字横平 162-1）

《第2日目／11月30日（水）》

○石川県庁（石川県金沢市鞍月1-1）

○いしかわ里山里海サイクリングルート（石川県羽咋市千里浜町タ 4-1）

○兼六園（石川県金沢市兼六町1）

◇視察日程

○11月29日(火)【参加議員8名】

山本真吾、大橋一功、松本利明、中川あきひと、岡沢龍一

徳村さとる、西林克敏、富田武彦

- 7:20 新大阪駅集合（中央口）
- 7:39 新大阪駅発 のぞみ210号【23番線】
- 8:28 名古屋駅着
- 8:43 名古屋駅発 特急ひだ3号【11番線】（乗車時間2時間15分）
- 10:58 高山駅着 以降マイクロバスにて移動（ダムまで1～1.5時間）
※改札口でお迎え／1日目運転手 平塚様
- 12:30 途中で昼食 「ドライブインみぼろ湖」
- 13:30 ・MIBOROダムサイドパーク着 ※ドライブインから車で15分
（説明聴取）建設の経緯・現状・課題、環境保全、災害対策、維持管理、
地元住民対応、観光資源
・御母衣ダムに移動し、本体、機械室等視察
- 15:30 視察終了、高山市内へ
- 17:00 ホテル着「高山グリーンホテル」
夕食

○11月30日(水)

- 8:00 ホテル発（終日マイクロバス移動／2日目運転手 宮沢様）
※約2時間乗車
- 10:00 石川県議会（金沢市）
※議会庁舎正面玄関入ってすぐの受付にて議会事務局職員と合流
・自転車活用推進計画
・公園管理手法の考え方（指定管理・直営）
- 11:30 終了 ※早めに終わった場合ドライバーへ連絡
- 12:00 昼食：県庁近辺にて「魚匠庵」
- 13:10 いしかわ里山里海サイクリングルートの視察 ※車で40分 ★
・現地視察（レストハウス事業者・県職員案内）
※能登千里浜レストハウスにて
レンタサイクル利用状況
サイクリングルートの整備状況、千里浜なぎさドライブウェイの現況
- 13:50 終了、兼六園へ ※千里浜なぎさドライブウェイから車で40～50分
- 14:30 兼六園視察 ※蓮池門口にて公園職員と合流
・現地視察（県職員案内）
直営公園の管理状況について
・公園視察
- 15:10 視察終了、金沢駅へ
- 15:40 金沢駅着 （富田議員は解散）
- 16:00 金沢駅発（サンダーバード34号）（159分）
- 18:39 新大阪駅着

◇視察の内容

【御母衣ダム】

日 時：令和4年11月29日（火）13時30分～15時30分
場 所：MIBORO ダムサイドパーク、御母衣ダム天端及び御母衣発電所
視察内容：ロックフィル形式ダムの概要、維持管理、地元住民とのコミュニケーション
及び地下発電所の概要
説明者等： 電源開発株式会社 水力発電部 石井中部支店長代理
御母衣発電所 佐々木所長、頭本所長代理

（概要説明）

○御母衣ダムの概要、発電所の概要・運転状況説明

ダム形式の比較 安威川ダムと、御母衣ダムとは、そもそも設置目的が異なる。御母衣ダムは利水（発電）が目的なので、貯水量を出来るだけ多くし、全ての水を有効利用している。さらに下流に複数個の発電ダムがあるので、それらと連携して水力発電の稼働に最大限、水を有効利用している。なお、貯水量が最大になるのは、4月ごろの融雪のとき。

一方、安威川ダムは治水が目的なので、降雨量が多く見込まれる前に、貯水量を最小にし、梅雨時期、豪雨の時期に一時的に雨水を貯留する。ただし、安威川ダムは一定規模下流域の保守のためにも、その貯留水を利用する。

○荘川さくらについて

御母衣ダムの建設時、ダム湖底に水没することとなる山桜の巨木（幹回り6米以上）をダム湖畔に移植する大工事が行われ、今も電源開発株式会社の手厚い保護がなされている。この事業を実施したのは、高崎達之助（大阪府立茨木高校卒）で、今でも地元の人たちに敬愛されている。地元住民との信頼が築かれ、ダムが地域と共存していることがよくわかった。

（意見交換・質疑概要）

Q 築60年以上が経過しているが、ダム表面に草木等が生えていないか？

→根がはびこると、堰堤を痛めるので、十分注意している。

（ダム堰堤を視察時にも、きれいに保守されていることを確認した）

Q 流木が上流側のロックフィルに見られたので、対策を聞いた。

→通常は、流木防止の網場で対応しているが、底のほうから流下し、ロックフィルの上流側に溜まることもあり、その都度除去している。（視察時に、数本の流木が目視された）

Q ダムへの堆砂について

→御母衣ダムの位置が結構上流なので、堆砂は予定よりも少ない。

(現地写真)



＜御母衣ダム全景（電源開発提供）＞



＜御母衣発電所にて意見聴取と意見交換＞



＜MIBORI ダムサイドパークにて構造説明聴取＞



＜地下発電所の視察＞



＜荘川さくら＞

【石川県庁】

日 時：令和4年11月30日（水）10時00分～11時30分
場 所：石川県議会庁舎 301会議室
視察内容：自転車活用推進計画 及び 県営公園の管理について
説明者等：石川県土木部 道路整備課 課長補佐 前田 崇志様
観光戦略推進部 観光企画課 課長補佐 大西 洋彰様
土木部 公園緑地課 小倉 恵子様

（概要説明）

○石川県の自転車活用推進計画について

現在全国的に自転車利用の多様化が進み、移動手段から「趣味・健康増進」として利用。また、全国的にサイクリングルートが設定され観光振興のツールとしてサイクリングが活用されていることから石川県の特性を活かしたサイクルルートの設定を目指した。

石川県のエリア設定としては、里山里海の豊かな自然環境の能登エリア、歴史と文化の金沢エリア、名峰白山と温泉郷の加賀エリア の3エリアから構成。石川県には既存の充実した大規模自転車道が合計160km有り、県内各所に点在する「道の駅」24箇所も自転車利用時の休憩施設として利用可能となっている。

H28に県と市町が主体となり協議会を設置。県内3地区において、関係市町合同で試行ルートを作成。H29からは、いしかわ里山里海サイクリングルート利用者促進協議会を結成し、県下全域に7ルートを指定。ルート案内のための1キロごとの路面表示や74箇所のサポート施設を設置し、利用促進のためウエルカムボードを設置し、モバイルスタンプラリーやフォトコンテスト等の利用促進策を実施。

その結果、利用状況は当初の2倍以上になった。併せて利用者のニーズ等を把握するためスタンプラリーの景品応募の際ホームページを利用しアンケート調査を行なっている。県内のレンタサイクルの状況では、7ルートの各観光案内所や駅を利用し普及してきている。

○ナショナルサイクルルートの指定に向けた取り組みについて

国では、東京オリンピック・パラリンピックを契機に自転車を活用した観光誘客による地域振興を図ることを目的に「ナショナルサイクルルート制度」を創設し、国が全国のサイクルルートの中から一定の要件を満たすルート独自に選定し第3者委員会の審査を経て国土交通大臣が指定している。現在全国では北海道・富山・茨城・千葉県から和歌山県の太平洋自転車道・滋賀県びわ湖・しまなみ海道の6ルートが指定されている。指定されれば国の支援として、①国やJMTOによるプロモーション、②ナショナルルートとしてのブランド価値の向上等、指定により更なる誘客効果が期待される。指定を目指し、今後、100m毎の矢羽根型路面表示やルート名や距離・危険箇所の注意喚起表示等実施していく。R6春の北陸新幹線県内全線開業に合わせ、走行環境の整備をR4・R5の2か年で行い、利用促進・観光誘客につなげたいところ。

○北陸3県をつなぐサイクリングルートの設定について

R4.7月 北陸3県知事懇談会を開催し、3県をつなぐサイクリングルートの設定を目指している。北陸におけるサイクルツーリズムを活用した観光誘客を推進するもの。現在まで

に千里浜サイクリングロード等、欧米豪の観光客にも好評を博しているとのことで観光誘客のツールとなっている。

○県内のレンタサイクルの状況について

県としての整備は進めているものではなく、市町、観光団体が取り組んでいる整備状況を取りまとめて案内している。電動アシスト付きのレンタサイクルをやっている市町（19のうち11）・団体が実施しており、これを観光客向けに公開。利用状況については把握していない。

ほか、市町ではない民間事業者が整備するにあたり県として支援した例があり、午後に現地訪問予定の能登千里浜レストハウスについて昨年度レンタサイクル事業、スタートアップに係る費用として、自転車・サイクルラック購入、周辺のサイクリスト向け観光マップ・PRポスター制作、検証モニターツアー実施の費用を補助した。石川魅力開発民間プロジェクト応援事業として、魅力観光連盟を通じて県から支援（実績 R3：22件申請 11件採択、R4：43件申請 22件採択）。30万円を上限に10分の10を支援するほか、近ツリ、JTBなど大手旅行会社向けに、観光素材をまとめた提案シートを作成し、各社の商品造成担当者にアピールしている。

○直営の県営公園の管理について

県営公園17のうち14は指定管理。指定管理者は民間事業者のみならず、行政と関連の深い団体や、市町が管理している例もある。3つの直営、兼六園・金沢城公園は出先機関が、鞍月セントラルパークは当課が管理している。

兼六園はもともと金沢城の外庭。6つの魅力を兼ね備えた公園というのが名の由来。午後に現地視察いただく。金沢城公園は、明治以降は陸軍の拠点。終戦から平成まで金沢大学の拠点であったが、移転に伴い公園として整備され一般公開された。シンボル公園として順次、復元整備に取り組んでおり、現在は二の丸御殿の復元整備中。鞍月セントラルパークは県庁隣接。有事の際の県庁と合わさって防災の対応ができる構造となっている。

直営にするメリットについて、前者2つはほぼ全域が国史跡で兼六園は特別名勝。県は文化財保護法に指定する管理団体であり、文化財の管理も一体的に行っていること、位置的にも金沢城公園・兼六園は県を代表するものであり直営としている。県としては、民間経営のデメリット、例えば事業の安定性・継続性・確実性よりも採算性が重視されかねない、長期的視点で庭園庭師の特殊技術の継承という観点からも直営としている。

直営・指定管理での収入の違いは、入園料の有無や有料施設の有無がそれぞれ異なるため比較は難しいが、各公園で努力している。集客の工夫について、例えば、金沢城公園と兼六園の県直営の茶室では、利益の追求よりは来園者に楽しんでいただくことを重視したスタイル。2か月に1度はお茶菓子を変更したり、スタッフガ着物を着用してお点前を披露したり、気軽に楽しめるよう工夫している。スタッフは会計年度職員として雇用している。売店や茶店ごとの目標ではなく公園ごとに中期経営目標を定めている。直営公園は県の観光戦略として重視されているので、北陸新幹線金沢開業年の入園者数維持を目標に、指定管理者は緩やかな上昇志向というイメージのもと5年間で入園者数5パーセント増を目標にしている。

（意見交換・質疑応答）

○サイクルツーリズムの経済効果の指標は？（肌感覚でも）

→具体的な指標はないが、旅行会社の声では、特に能登半島へは海外の富裕層が多いとのこと。過去に県の事業で、イギリス・カナダからのサイクルツアーを誘致した経験では、日本人は本気度の高い自転車で疾走する人が多いが、外国人の富裕者層はママチャリでのんびり楽しみに来る。滞在日数が長かったり輪島塗を購入されたり、消費額は大きくなる。

- パッケージツアーで自転車ツアーの販売はある？その場合の宿泊はどうしている？
→先述の富裕層は市内のシティホテルや旅館。自転車目的の日本人は国民宿舎の方も。
- 関西は、中国・東南アジアが多く欧米旅行者の取り込みが課題。
→石川は欧米旅行者の割合が全国的に高い。東京 in 大阪 out の日本海周りで来る方が多いのでは。
- 3県をつなぐルートについて、標識やルールづくり（ユニバーサルデザイン化など）は3県一斉に取り組んでいるのか、それぞれなのか。
→これまでそれぞれ取り組んでおり違いがある。国のガイドラインに沿って、設置間隔や迷わないようにという目的は果たされている。デザインとしての統一感があるかという点はないが、目標は達せられているかと。
- 自転車のサポート施設に対する補助金などは？スマホスタンプラリーの参加率は？
→金銭的補助はないが、空気入れや自転車ラック、工具は必要に応じて提供している。参加率という取り方ではないが、徐々に参加者は増えてきている。リピーターもいる。
- 大阪にはシマノがある。自転車部品メーカーとの連携などは？
→モンベルが全国の店舗で取り組んでいるジャパンエコトラックと協力している。
- 自転車利用者は増加傾向だが、事故は？
→しまなみ海道ほどではないので、利用者が多く危ないといった感覚はあまりないが、自転車事故は全国的にも増えているが現状。国のナショナルサイクルルートの基準で、保険加入が重要とされている。県でも、自転車保険加入の条例化を進めている。購入時・レンタサイクル観光利用時など、全般的な自転車利用を対象とした保険加入。
- 公園について、指定期間が5年となっているが、大阪は長期的に伸ばすという観点もあるが、石川県で、長期化を望む声や不満などないのか。
→指定管理者制度導入当初3年だったが世情を踏まえ5年に延長。現状これ以上はない。
- 金沢城公園・兼六園は、他の公園に比べて桁違いの入園者数で、兼六園は一般財源投入ゼロとのこと。入館料で賄っている？
→今般はコロナ禍で入園者数減っており一般財源を入れている。金沢城公園は無料なので、一般財源を入れている。
- 兼六園で収支がプラスになった場合の歳入使途は？他の県営公園へは？
→兼六園の維持管理に使う。
- 指定管理委託料の考え方は、過去の委託料の何割という方式か、必要費用の積み上げ方か？
→H18の制度開始当時は前者と聞いている。



<石川県庁にて>

【いしかわ里山里海サイクリングルート】

日 時：令和 4 年 11 月 30 日（水）13 時 10 分～13 時 50 分
場 所：石川県千里浜なぎさドライブウェイ及び能登千里浜レストハウス
視察内容：いしかわ里山里海サイクリングルートの現況等
説明者等：能登千里浜レストハウス（株式会社能登風土） 営業部長 前多 朝和様 石川県土木部 道路整備課 課長補佐 前田 崇志様（雪寒・安全対策グループリーダー） 土木技術専門員 大代 昇平 様

（説明概要）

○能登千里浜レストハウスでのレンタサイクルの利用状況について

サイクルツーリズムの取り組みを普及させる目的で行政からの支援金を受けながら、体験型観光素材の運営・事業実施をしている。貸台数は 5 台 塩分による腐食のためメンテナンスは頻繁に必要。所有する自転車台数の関係で大型グループでの利用やインバウンドをターゲットにしているのではなく、個人や少人数旅行者をターゲットとしている。

利用料金は 3 時間で 500 円、1 日で 1000 円。モデルコースとして、3 時間ならこれくらい、5 時間ならこれくらい走れる、というコースの提案もしている。「乗り捨て」はできず、営業時間内に返してもらっている。羽咋市のほうでは、当社以外の羽咋駅周辺で 3 か所くらい、電動自転車・三輪車みたいなのを貸し出している例もある。せっかく千里浜に来ていただくということでママチャリではなく普段乗らない本格バイクを用意した。子供用がないのと、女性がスカートで来てしまっただけで乗れなかったという例もあった。

利用状況は、個人の週末利用が中心。5 台全部出るときもあるが、午前中に 3 台、午後から 2 台というのが多い。車で来た方がちょっと乗ってみるというケースが多い。小規模でフルサポートではないが保険もかけている。大阪の方が保険加入の義務化が厳しいと聞く。そんなに高くないが購入のときに販売店に加入案内が義務付けられている。

レンタサイクルは今年度から導入。数年前は、アメリカのビーチクルーザーをおいていたこともある。鳥取砂丘のビーチクルーザーが有名で参考にしたが、千里浜の砂浜の特性から自転車のタイヤでもめり込まないため、クルーザーでなくレンタサイクルでも十分楽しめる。いろんな遊び方を提案しており、SDG s 教育の観点で修学旅行の際に講義させてもらうこともある。

レンタサイクルの周知は、SNS（インスタグラム）、県の冊子に掲載して少しずつ広めている。台数が限られているので広げすぎないようにと思っているが、利用者が増えてきたら台数を増やそうと思っている。

○自転車で走れる砂浜について（千里浜なぎさドライブウェイ）

長さ約 6km 千里浜海岸内に位置する車や自転車で走行できる砂浜。悪天候のため実際のコース確認は出来なかったが、配布の資料や意見交換の中で、世界的に見ても車や自転車で走行できる世界で 3 つしかないと言われる非常に珍しい砂浜であり、県内屈指の誘客スポットであることは施設内からでも十分に確認できた。

砂の粒が細かく、川の土砂と海流の関係で一般的な海岸の砂の 4 分の 1 しかないとのことでした。また課題として千里浜海岸においても砂浜の減少により近年では冬季風浪などによる侵食被害が発生しており、平成 6 年の夏から平成 23 年の夏までで 50m あった海岸幅が 35m になるなど貴重な財産を後世に残すべくハード・ソフト両面から「千里浜再生プロジェ

クト」が進んでいる。

（意見交換・質疑概要）

○千里浜は自転車ではなく車のイメージだった。海水浴もできるのか。

→メインの売りは、車が入れるというものだった。海水浴もしている。海水浴ブロック、通行ブロックを区別して標識などで誘導している。夏場は、車できても波打ち際までは入れない。

○車が入ることによるゴミなど環境面の課題は？

→羽咋市の管理で、砂浜を清掃車が走っている。ボランティアの方も来てくださっている。企業の研修で砂浜清掃に取り組む場合も。

○サイクリング事業から話はそれるが、砂が沖に流れていってしまうので、再生プロジェクトを行っている。テトラポットは景観が良くないため使えない。自転車のみならずバイクの聖地として有名。今年は5月と10月と併せて1万台のバイクが集まった。

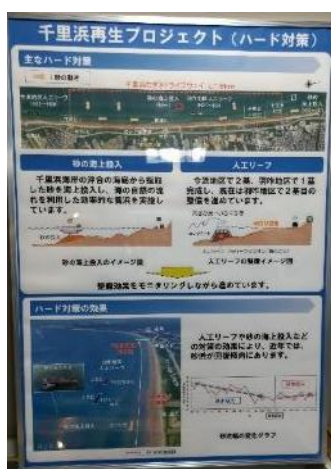
○この施設は100%民間の経営？

→羽咋市関係者や事務組合長が役員に入っていたため「公営」を謳っていた時代があるが、今は100%民間の運営。土地の所有者は別。建物を建てて運営している。

（現地写真）



＜千里浜なぎさドライブウェイ＞



＜能登千里浜レストハウスにて説明聴取＞

＜砂浜の整備について（千里浜再生プロジェクト）＞

【兼六園】

日 時：令和4年11月30日（水）14時30分～15時10分
場 所：兼六園
視察内容：兼六園の管理について
説明者等：石川県金沢城・兼六園管理事務所長 押野 朗 様

（概要説明）

○兼六園について

水戸偕楽園（かいらくえん）、岡山後楽園（こうらくえん）とならぶ日本三名園の一つ、兼六園。兼六園は江戸時代の代表的な大名庭園として、加賀歴代藩主により、長い歳月をかけて形づくられてきた。金沢市の中心部に位置し、四季折々の美しさを楽しめる庭園として、多くの県民や世界各国の観光客に親しまれている。

兼六園は、「廻遊式」の要素を取り入れながら、様々な時代の庭園手法をも駆使して総合的につくられた庭。廻遊式とは、寺の方丈や御殿の書院から見て楽しむ座観式の庭園ではなく、土地の広さを最大に活かして、庭のなかに大きな池を穿ち、築山（つきやま）を築き、御亭（おちん）や茶屋を点在させ、それらに立ち寄りながら全体を遊覧できる庭園のこと。いくつもの池と、それを結ぶ曲水があり、掘りあげた土で山を築き、多彩な樹木を植栽しているので、「築山・林泉・廻遊式庭園」とも言われている。

何代もの加賀藩主により、長い年月をかけて形づくられてきた兼六園だが、作庭における基本的な思想は一貫していたようで、その思想とは神仙思想。大きな池を穿って大海に見立て、そのなかに不老不死の神仙人が住むと言われる島を配している。藩主たちは、長寿と永劫の繁栄を庭園に投影した。最初の作庭者、5代藩主・綱紀（つなのり）は、瓢池に蓬莱（ほうらい）・方丈（ほうじょう）・瀛州（えいしゅう）の三神仙島を築いた。また、13代藩主・斉泰（なりやす）も、霞ヶ池に蓬莱島を浮かばせている。

（意見交換・質疑概要）

○施設の利用促進に向けた取り組みは？

- ・重要文化財建造物をはじめ、玉泉院丸庭園などのガイドツアー等を実施して、金沢城の魅力を発信している。
- ・金沢城ならではの特性を活用し「金沢らしさ」が感じられるイベント等を積極的に誘致して利用者満足度とイメージの向上を図っている。
- ・復元建物の利活用を図るため、金沢コンベンションビューロー等と連携して企業団体への積極的な働きかけを展開している。
- ・復元建物を活用した展示企画等、金沢城の歴史や文化に関わる催事を行なっている。
- ・鶴の丸休憩館やホームページ等を活用し、四季を通じた金沢城の見どころの紹介などの情報発信に努めている。
- ・わかりやすく、利用しやすいパンフレットづくりに努めている。

○サービス（満足度）向上に向けた取り組みは？

- 外部講師による研修会の実施などにより、案内所スタッフやボランティアガイドの接遇力の向上を図り、来園者への一層のサービス向上に努めている。
- 電動車いすの活用、施設のバリアフリー化を推進し、高齢者や身体が不自由な方に配慮した運営に努めている。
- 「利活用推進策」を見直し、多様な利活用が図られるよう取り組んでいる。

○施設運営の効率化に向けた取り組みは？

- エネルギー節減の意識を高め、光熱水費等管理コストの縮減を図っている。
- 既設照明のLED化を進め、電気使用量の削減を図っている。

(現地写真)

